

「うなぎ味のナマズ」産業化へ本格始動 「日本なまず生産株式会社」設立 来年の「土用の丑の日」には 100 トンの出荷を目指す

近畿大学農学部水産学科（奈良県奈良市）准教授の有路昌彦が開発した「うなぎ味のナマズ」の産業化を目的に、かねてから生産パートナーである有限会社牧原養鰻（鹿児島県東串良町）が新会社「日本なまず生産株式会社」を設立しました。なお、同社取締役には開発者の有路が就任いたしました。

新会社は、株式会社鹿児島銀行（鹿児島県鹿児島市）が出資を行っている KFG 地域企業応援ファンドから約 3 千万円の出資を得て、来年の土用の丑の日に「うなぎ味のナマズ」100 トンの出荷を目指します。

【本件のポイント】

- 「うなぎ味のナマズ」産業化へ、新会社を立ち上げ本格始動
- うなぎ生産量日本一を誇る鹿児島県の鹿児島銀行系ファンドが出資
- 来年の土用の丑の日には 100 トンの出荷を目指す

【本件の概要】

平成 27 年（2015 年）6 月、近畿大学農学部水産学科准教授の有路昌彦が開発した「うなぎ味のナマズ」が試験販売され、以降大きな注目を集めました。来夏には大きな需要が見込めることから新会社を設立し、来年の土用の丑の日には 100 トン以上の出荷を目指すこととしました。

新会社では「うなぎ味のナマズ」の産業化だけでなく、天然稚魚の漁獲量減少で苦しむ養鰻業者との FC 契約を積極的に行うことで、地方創生にも大きく貢献することを目標としています。



試験販売した
「うなぎ味のナマズ」御重

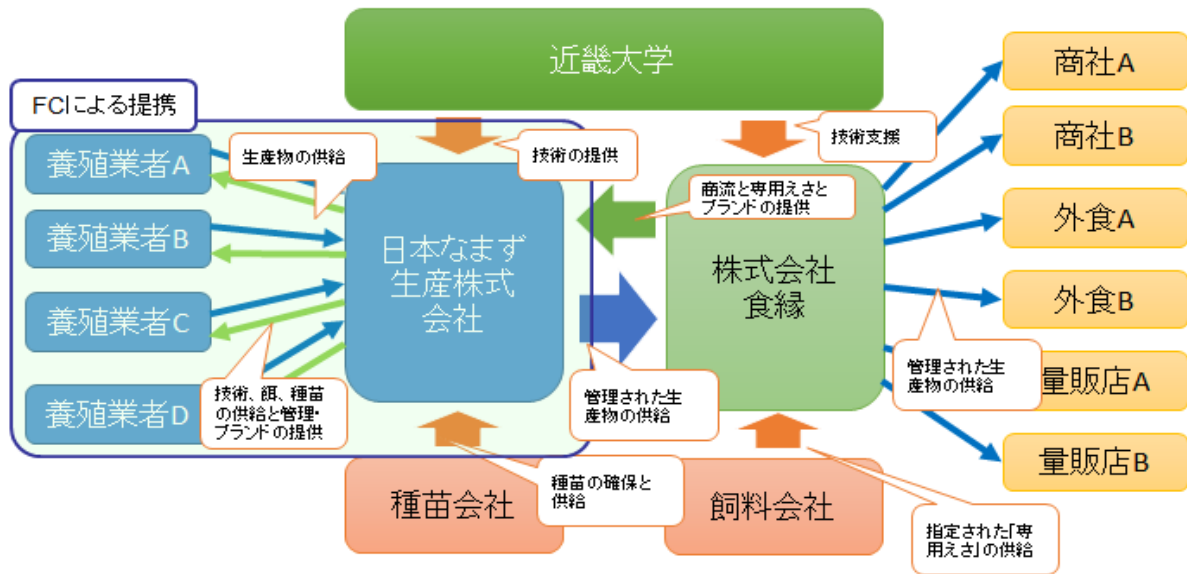
【会社概要】

会社名	日本なまず生産株式会社
代表者	代表取締役 牧原博文
所在地	鹿児島県肝属郡東串良町岩弘 1437 番地
設立年月	平成 27 年 8 月 17 日
資本金	50 百万円（KFG 地域企業応援ファンド 57%、牧原博文 40%、有路昌彦 2%、中尾友一 1%）
決算期	7 月末
事業内容	内水面養殖業（ナマズ養殖）、ナマズ生産管理業

【日本なまず生産株式会社事業内容について】

日本なまず生産は、自社でなまず専門生産を行うのと同時に、「うなぎ味のナマズ」の生産技術管理と共有を行う FC（フランチャイズ管理）企業です。これによって希望する企業は FC 契約の元生産技術を共有できるようになります。

FC 契約を結んだ企業は、FC 管理の下、他製品と区別する認証マークをつけ、「ナマズ味のナマズ」と「うなぎ味のナマズ」が区別されて市場に供給されることとなります。この方法によって技術移転を進め、迅速な市場化を目指します。なお FC 先企業には専用餌と生産技術、販路を供給します。



【うなぎ味のナマズについて】

近畿大学農学部水産学科准教授の有路昌彦が開発した「うなぎ味のナマズ」とは、日本産マナマズの成魚養殖の技術を体系化することで、食味をうなぎの味に近付けたものです。

日本産マナマズは種苗生産技術が確立されているため完全養殖が可能で、うなぎのような資源的問題がありません。これまでも郷土食として限定的な地域でマナマズ養殖が行われていましたが、食味がやや泥くさく脂質をほとんど有していないため、ウナギの味とは程遠いものでした。



うなぎ味のナマズ

有路の研究によって、天然マナマズのなかでも産地によって脂質を多く含み、泥臭さが少ない個体があることがわかりました。さらに、食味の調整には「餌のコントロール」と「水質のコントロール」の2点が重要であることを特定し、「うなぎ味のナマズ」を開発しました。7月24日の「土用の丑の日」に近畿大学水産研究所店舗（大阪梅田・東京銀座）で限定60食を販売したところ、アンケートで「美味しかった」との回答が85%と品質において高い評価を得ました。



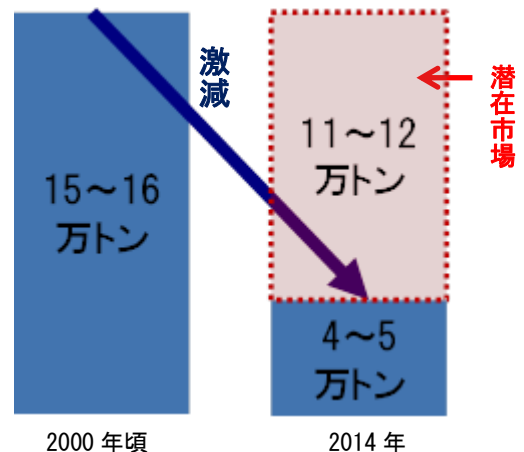
<参考>

【ウナギ類の供給について】

うなぎは日本人の食文化に欠かせない食材ですが、ここ数年、養殖うなぎの原料となる天然稚魚の漁獲量が激減し、供給量が需要に追いついていないという問題があります。平成 26 年(2014 年)には、国際自然保護連合(IUCN)がニホンウナギを「絶滅する危険性が高い絶滅危惧種」に指定し、レッドリストに掲載されました。

完全養殖の技術が確立されているマナズがウナギ代わることができれば、一般消費者の需要を満たすことができます。近畿大学水産経済学研究室では、マナズを普及させ、将来的にはニホンウナギの半分以下の価格で提供することを目指して研究を続けています。

ウナギ類の総供給量の推移



【KFG 地域企業応援ファンド】

(正式名称：KFG 地域企業応援投資事業有限責任組合)

鹿児島銀行(頭取 上村基宏)、肥後銀行(頭取 甲斐隆博)および株式会社九州 Kizuna キャピタル(代表 小布施敦士)と共同で平成 27 年(2015 年)10 月 1 日にファンド総額 20 億円で設立しました。地場(鹿児島・熊本・宮崎)に拠点を有する企業に対し、あらゆる事業ステージにおいて支援することを目的としています。

※本件は、KFG 地域企業応援ファンド第 1 号案件概要です。

- ・ファンド出資額：2,850 万円
- ・ファンド出資日：平成 27 年 11 月 13 日
- ・出資目的：養鰻生産量全国 1 位を誇る鹿児島の養鰻技術と豊富な地下水、遊休資産の活用が見込め、鹿児島県大隅地方の新たな特産として、地元産業・雇用の維持拡大が期待できる。